

建材マンズリー

Kenzai Monthly

特集

建材トップランナー制度 始まる

ここでちょっと一息 **Coffee Break**

夫が言い出した「家を建てる！」
妻や親の「こだわり」をどう調整？

付加価値創造に挑戦！注目企業を訪ねる

トーホー株式会社

今月のニュース

建材マンズリー資料室



建材トツプランナー制度、始まる

自動車や電気製品など、エネルギーを消費する機器に対してエネルギー消費効率の改善を促してきたトツプランナー制度が、建築材料にも適用されることになった。最初に対象となったのは、外壁や床などからの熱損失を防ぐ「断熱材」である。新たな建材トツプランナー制度の詳細を、資源エネルギー庁省エネルギー対策課の中村幹氏から説明いただく。またトツプランナー制度対象の断熱材を紹介する。

断熱材は「高付加価値品市場」への移行が期待される



資源エネルギー庁
省エネルギー対策課
中村 幹 氏

建物からの熱損失は住宅の場合、断熱材が関わる外壁20%・床7%・天井4%、開口部の窓が50%、残りは換気に伴うも

のとされています。この外皮部分の「熱損失防止建築材料」である「断熱材」と「ガラス、サッシ」が、新たにトツプランナー制度の対象となりました。断熱材に関する詳細はすでに決まり、制度がスタートしました。ガラス、サッシについては、現在、業界と意見交換をしながら検討中です。

皆さんも特色に合わせて、断熱材を使い分けていると思います。それぞれに役割分担があるということで、それぞれの現状に合わせた性能改善目標を設定しました。

目録基準値の指標は「熱伝導率λ(ラムダ)」を使用しています。熱伝導率は熱の伝わりやすさを示す指標で、断熱材そのものの性能数値です。厚みを増すと性能が改善する「熱抵抗値」は、材料の厚み(単位:m)を熱伝導率で割ると計算できます。

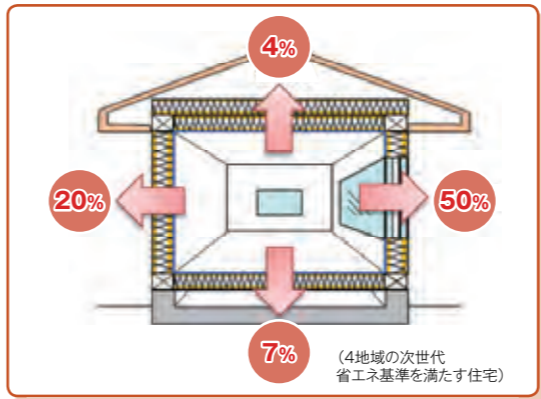
対象となる断熱材は3種類

今回対象となった断熱材は、「グラスウール」「押出法ポリスチレンフォーム」「ロックウール」の3種類です。それぞれ2022年度までの性能改善の「目標基準値」が設定されました(図表2を参照)。

断熱材ごとに基準値が設定された理由は、それぞれの素材に特色があるため

改善見通しと市場シェア推移で「目標基準値」を決める
目録基準値は、ロックウールについては「現在のトツプランナー値」に「性能改善

図表1 住宅からの熱損失



予測)を加えて設定しましたが、ほかの二つは少し複雑な決め方になっています。グラスウールと押出法ポリスチレンフォームには「普及品」と「高付加価値品」の2つの市場があり、徐々に高付加価値品にシフトしていますが、コストパフォーマンスが良い普及品市場も無視はできません。そこで、普及品と高付加価値品の「個別のトツプランナー値」と「技術改善予測率」、それに「2つの市場シェアの推移」を勘案して、目録基準値を出しています。

高付加価値品では、現時点でほぼクリアする数値となりますが、普及品にとっては少し高いハードルとなります。普及品から高付加価値品へ市場移行を促す

普及品から高付加価値品へ市場移行を促す

目録基準値は、各製品が目指すところ。理想は、普及品も含めてすべての製品が基準値を超えることですが、クリアの仕方はメーカー各社の自由です。

基準値以下でも需要のある普及品を製造したいとするメーカーでは、高付加価値品の出荷を今までより多くして、平均値で基準値を上回るという方法を取ること

も可能です。つまり、普及品から高付加価値品へ出荷シフトを移行することで、基準値を上回ることも可能となります。このように、今回の建材トツプランナー制度では、各メーカーに製品の性能向上を促しているだけでなく、より断熱性能の高い高付加価値品へのシフトも行っている

図表2 2022年までのそれぞれの目標基準値

対象断熱材	目標基準値(熱伝導率λ※)	性能改善率
グラスウール断熱材	0.04156 W/(m·K)	6.04%
押出法ポリスチレンフォーム保温材	0.03232 W/(m·K)	6.19%
ロックウール断熱材	0.03781 W/(m·K)	0.50%

※熱伝導率λ(ラムダ): 1m厚の材料の両面に1℃の温度差があるときに、1秒間に通過する1㎡当たりの熱量。数値が小さいほど断熱性能が良い。

対象にならなかった断熱材も引き続き使用可能

トツプランナー制度というのは、「推奨制度」ではなく法律による「規制」です。対象になった場合は、メーカーが性能向上の努力をしなければならず、もし基準値を満たさなければ指導・改善命令が行われる可能性もあります。

中小規模の事業者への配慮などから、

市場シェアが小さい断熱材は、建材トツプランナー制度の対象から除外されています。

硬質ウレタンフォームは施工現場によって性能が変わる可能性があるため今回は除外されましたが、今後、測定方法や評価方法を調査した上で、再度、検討されることになっています。

当然、対象外の断熱材も引き続き使用できます。

断熱材への性能表示義務は2015年7月から

今回対象となった断熱材には、性能表示の義務があります。現在、その準備期間中で、表示は来年の7月からスタートします。表示事項は品名、区分名(グラスウール断熱材など)、熱伝導率、製造事業者名などと決まっていますが、どのような形にするかは、各業界の裁量に任されています。また、「省エネラベル」のような分かりやすい表示方法についても、業界内部で検討していると聞いています。

軸が追加されたというのが、今回の制度の一番のポイントではないかと思っています。トツプランナー制度により建材のイノベーションが誘発され、消費者が意識することなく、いつの間にか省エネ性能の高い製品が世の中に出回ることが期待されます。ヨーロッパに比べると、日本の住宅の断熱性能はまだ低いので、その底上げが今必要です。新築・改築時に高性能の断熱材を使用すれば、何十年の間、省エネに寄与します。今回の制度をきっかけに、断熱材にも高付加価値品があることを消費者にアピールし、普及させていくことを、建材流通の方々にも期待します。

省エネ法とトツプランナー制度

トツプランナー制度は、1998年の改正省エネ法に基づいて導入された制度。自動車や家電製品などエネルギーを消費する機器に対し、現状で最も優れたエネルギー消費効率の製品(トツプランナー)のトツ値に技術進歩を加えた「目標基準値」を設定し、3~10年先の目標年度までに満たすことを、製造・輸入業者に求めるもの。現在まで28機器が対象となっており、今回、建材が新しく加わった。目標年度に基準を達成しなかった事業者には、その理由や今後の対応の報告が求められ、その効率改善が不十分な場合には、勧告や命令が行われる。

建材トップランナー制度対象の 高性能断熱材

新しく始まった建材トップランナー制度では、グラスウール、押出法ポリスチレンフォーム、ロックウールの3種類の断熱材が対象となった。各断熱材の中で、高付加価値商品を紹介する。

押出法ポリスチレンフォーム

目標基準値：0.03232

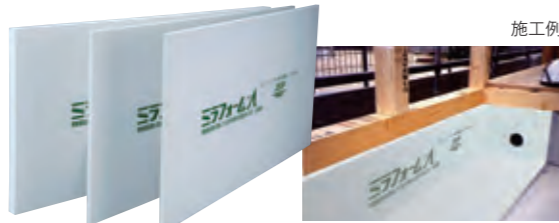
液化したポリスチレンに発泡剤と難燃化剤を混ぜ合わせ、発泡剤の瞬時の気化力を利用し、発泡させながら連続的に押し出して製造する。押し出された発泡体は裁断された後、寸法安定のため一定期間熟成して出荷される。

無数の気泡でできた発泡プラスチック系の断熱材の一つで、断熱性能、耐水性に優れ、加工も容易。住宅では基礎

や床などに多く用いられている。

シックハウスの原因物質の一つであるホルムアルデヒドを含んでいないので、建築基準法の「告示対象外」の断熱材となり、表示は等級3「F☆☆☆☆」。また、グリーン購入法の特定調達品目「断熱材」の判断基準に適合した「ノンフロン」断熱材である。

- 断熱性：今まで限界とされていた断熱性能をさらにレベルアップ。
- 施工性：省エネ基準（等級4）に必要な厚さが他の断熱材よりも薄くてすみ、施工性や躯体への収まりが良い。
- 防水性：吸水性が低く、断熱・防露に安定した性能を発揮する。
- 安全性：ノンフロン・ノンホルムアルデヒド・4VOC基準に適合。

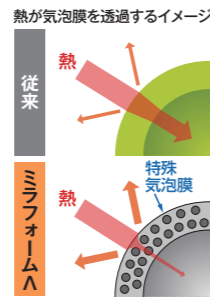


高断熱のメカニズム

気泡膜の新技术による
放射熱の抑制・ガスバリア性UP

気泡形状による
熱伝導の抑制効果

超高断熱化の実現



製品規格	
厚さ (mm)	25・30・40・50・55・75
幅 (mm)	910
長さ (mm)	1,820
熱伝導率 (W/m・K)	0.022

ミラフォームΛ(ラムダ)

株式会社JSP

商品問い合わせ先：住宅資材グループ ☎03-6211-6363

熱伝導率0.022W/m・Kという画期的な断熱性能を実現した住宅用の高性能・新次世代型断熱材。従来の「ミラフォーム」にプラスチック発泡の特殊技術を加えることで、断熱性能を飛躍的に向上させた。特殊気泡膜が放射熱の抑制と空気を通さないガスバリア性をアップさせ、気泡の形状が熱伝導の抑制効果をもたらしている。

ロックウール

目標基準値：0.03781

耐熱性に優れた玄武岩などの鉱石や、製鉄プロセスの副産物である高炉スラグを原料とした、人造鉱物繊維の断熱材。原料を高温で溶かし、遠心力などで吹き飛ばして均質で細かい繊維状にした後、マット状に成形加工する。省エネ先進国ヨーロッパで、住宅用断熱材として長年使われている。

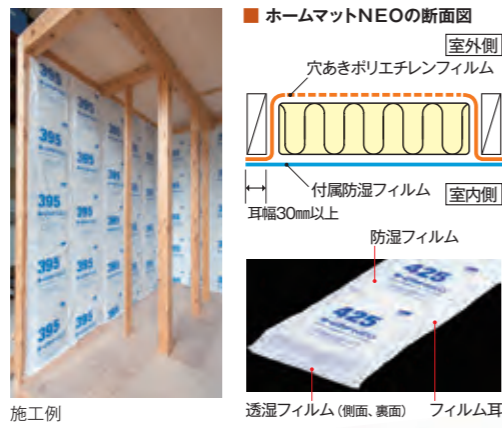
微細なロックウール繊維の間隙には、大量の動きにくい

空気が含まれているので、この「動かない空気の壁」が熱の移動を防ぎ、優れた断熱性能を発揮する。また、この空気の壁は、音のエネルギーを吸収するので、高い防音・吸音効果が発揮される。基材自体が火に強い性質を持つため、防火・耐熱性に優れ、経年変化がほとんどなく断熱性能を維持することも特長の一つ。

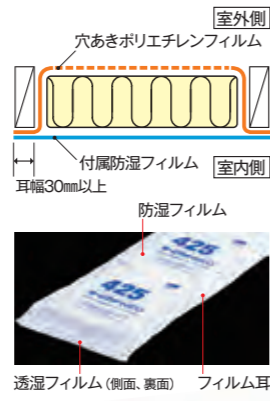
- 断熱性：繊維間に詰まった大量の空気が、室内外からの熱の出入りを防ぐ。
- 耐火・耐熱性：住宅用断熱材の中で最も優れた耐火・耐熱性を発揮する。
- 防音性：断熱材の密度が高いので遮音性に優れ、音の室外漏れや室外からの騒音を軽減する。
- 耐久・耐水性：水に強く劣化しにくい。また、30mm以上の耳幅が防湿層の連続性を確保。
- 安全性：ホルムアルデヒド放散区分「F☆☆☆☆」適合製品。発がん性区分*では、お茶と同じく「発がん性に分類されない」。

*IARC（国際がん研究機関）による

製品規格	
厚さ (mm)	90・105
幅 (mm)	395・425
長さ (mm)	1,360
熱伝導率 (W/m・K)	0.038



ホームマットNEOの断面図



マット状に成形したロックウールを、「穴あきポリエチレンフィルム」と次世代省エネ基準に適合する「付属防湿フィルム」で被覆した「次世代省エネ基準」対応の住宅用断熱材。防湿フィルムを製品本体に一体化させたため、壁、屋根に使用する場合、別張り防湿フィルムの施工が不要になり、施工性がアップした。

ホームマットNEO

ニチアス株式会社

商品問い合わせ先：建材事業本部 ☎03-4413-1161

グラスウール

目標基準値：0.04156

リサイクルガラスなどを高温で溶かし、遠心力で吹き飛ばして繊維化し、結束剤を添加してふわふわした綿状の短繊維にした断熱材。住宅のほとんどの部位に使用でき、充填断熱工法に適している。

ガラスの強さと繊維の柔軟性を合わせ持ち、不燃材料なので燃えにくい。細い繊維が絡み合っ、内部に静止した空気

を多く含むため、断熱性能だけでなく高い吸音性能も持つ。また、高温多湿な状態に長く置かれても性能が劣化しにくく、コストパフォーマンスの高い断熱材として、日本の木造住宅で最も多く使われている。住宅用断熱材の場合、1/8～1/10にまで圧縮梱包・復元できるので、輸送・保管コストも低く抑えられる。

- 断熱性：地域区分II地域以南における次世代省エネルギー基準（等級4）に適合。
- 施工性：従来のグラスウールよりフィルム耳幅が広く、施工しやすい。
- 防湿性：防湿フィルムの厚さは50ミクロンで、高い防湿性を持つ。また、防湿フィルムの重ね幅（概ね30mm以上）に対応。
- 安全性：シックハウス症候群の要因のひとつといわれるホルムアルデヒドを含まない材料を使用。
- 耐火性：ガラスが主原料のため、火に強く燃えにくい。

製品規格	
厚さ (mm)	85・90・105
幅 (mm)	395・420・430・470
長さ (mm)	2,360・2,880
熱伝導率 (W/m・K)	0.038



細繊維タイプ（繊維径4～5ミクロン） 一般のグラスウール（繊維径7～8ミクロン）

アクリアネクスト

旭ファイバーグラス株式会社

商品問い合わせ先：カスタマーセンター ☎0120-99-6388

熱伝導率0.038W/m・Kの壁・屋根用の高性能グラスウール。高性能の防湿フィルムが付属し、施工性にも優れる。ノン・ホルムアルデヒドの健康住宅用の断熱材であり、原料の約80%にリサイクルガラスを使用するなど、省資源化にも貢献する。また、同社では最新の細繊維技術により熱伝導率0.032W/m・Kの製品の発売を予定している。

マグラムダ34

マグ・イズベル株式会社

商品問い合わせ先：コールセンター ☎0120-941-390

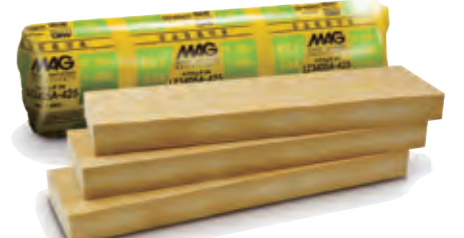
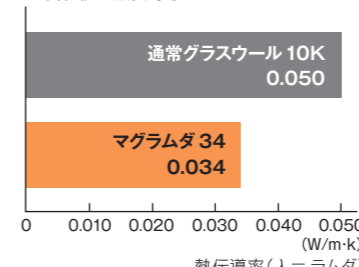
0.034W/m・Kの熱伝導率を持つ屋根・天井・壁用の高性能グラスウール。非常に細いガラス繊維を凝縮させており、同社の従来品と比較すると、約1.5倍の断熱性能がある。厚さは木造住宅の壁厚105mm、120mmに対応しており、充填断熱のみで壁の次世代省エネルギー基準以上の性能をクリアできる。

- 断熱性：目標基準値を大幅にクリアするハイスpek グラスウール。
- 施工性：手触りがしなやかで飛散性も低く、柱と柱の間に隙間なく充填できる。
- 吸音性：繊維が密に詰まっており、騒音となる音を小さくする吸音性にも優れる。
- 安全性：ホルムアルデヒド放散区分F☆☆☆☆。
- 撥水性：繊維への撥水加工処理で水をはじきやすい。

製品規格	
厚さ (mm)	105・120
幅 (mm)	390・425
長さ (mm)	1,370
熱伝導率 (W/m・K)	0.034



高性能の熱伝導率



未来の省エネを目指す「エネマネハウス」

“2030年の家”をテーマに、エネルギー・ライフ・アジアという3つのコンセプトのもと、大学と企業が連携して先進的な技術や新たな住まい方を提案する「エネマネハウス」。住宅の年間のエネルギー消費量が正味ゼロとなる「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（以下、ZEH）」を、ますます多様化、高齢化の進む暮らし（ライフ）にどう適合させていくか。そして、国内のみならずアジアの新興国など海外に普及させていくにはどうすれば良いかを、効率的に解決することを目指す未来

の住宅がエネマネハウスである。

今年1月、経済産業省資源エネルギー庁の事業のひとつとして、「エネマネハウス 2014」が開催され、大学と企業連携の5チームが未来のZEHを形にした。今回はその中から、2つの特徴的なエネマネハウスを紹介する。

※エネマネ＝エネルギーの使用状況を適切に把握・管理して最適化するエネルギー・マネジメントの略

●新しい木質構造材「CLT」とデジタル技術を融合 慶應義塾大学「慶應型共進化住宅」

プロジェクトリーダー：大学院 政策・メディア研究科 池田靖史 教授



新しい木質構造材である CLT を使用

建物の屋根下など、随所に大小様々な開口部を設けている「慶應型共進化住宅」。他のエネマネハウスが、冬場の暖房効率を高めて照明エネルギーの削減も図るため、一様に南面に大きな窓を設けているのに対し、大きく異なる構造を採用している。これは、建物が密集する都心部など、南面の条件が悪い立地でも安定して太陽エネルギーを取り込むための工夫である。

また、外観はもろろん室内全体に、新しい木質構造材である CLT (Cross Laminated Timber) を採用。工期の短縮が図れ、国産スギを使うことで国内の林業振興にもつなげる。



随所に開口部を設けることで効率的に太陽光エネルギーを取り込む



大陽光・太陽熱を活用しエネルギーの自立をめざす
今年6月に開催されるZEHの国際大会「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2014」への参加を目指す「ルネ・ハウス」は、ヨーロッパ基準の高断熱住宅を提案。木の繊維でできた断熱材や、木質材料の構造躯体やサッシを採用することで、建物の建設から運用、解体までを通して排出するライフサイクルCO₂の低減を目指す。また、建物の主要構造をユニット化すること



木質繊維断熱材をはじめ内装にも木材を多用

●木造住宅のユニット化とライフサイクルCO₂低減を実現 千葉大学「ルネ・ハウス」

プロジェクトリーダー：工学研究科 川瀬貴晴 教授



で、施工性を高めるとともにコンテナ輸送も考慮し、海外への普及を促進する。
高断熱や高气密のみならず、通風も重視しているのが特徴で、室内の随所に通風センサーを設置して「風の見える化」を実現。また、床下にファンを導入してエアコンからの暖冷気を床全体に送風することによって、通常の対流型エアコンでも輻射型の冷暖房が可能となり、室温が一定に保たれて省エネに寄与する。

分電盤には家電の使用状況がリアルタイムで分かるAI（人工知能）も設置し、エネマネに関する新技術も導入している。



藤井繁子
『月刊 HOUSING』編集長、リクルート住まい研究所主任研究員などを経てフリーの住生活ジャーナリストに。自治体や市民団体と街づくりに関わりながら、国内外で取材・コンサルティング活動などを行っている。

夫が言い出した「家を建てる！」 妻や親の「こだわり」をどう調整？

—注文建築の依頼先検討に関する家族のコミュニケーション調査—

ポスト消費税 UP、主戦場は都市の建替え

消費税 5%の9月末締切、駆け込み需要には「建替えや建物金額の大きな層が多かった」（大手メーカー談）ようで、その層の落ち込みがまだ見られるとのこと。4月以降の市場動向は手探りになるものの、日本のマクロ市場としては世帯数減少によって住宅需要は量より質にシフトしているわけですから、長期的には【都市の建替え】が各社の主戦場。より棟単価の高い、建替え・二世帯・賃貸併用住宅の営業推進です。都市部中心の旭化成ホームズで、2013年度上半期の建替え比率[約53%]・二世帯(キッチン2つ)比率[約22%]という実績。一般全国平均では二世帯同居建築比率は約17%程度(リクルート住まいカンパニー調べ)なので、今後増える余地がどの程度あるのか気になるところです。

今回、住友林業など大手住宅メーカー9社が運営する「イエノミカタプロジェクト」から、[注文建築の依頼先検討に関する家族のコミュニケーション調査]が発表されたので、中でも二世帯住宅の回答者に注目して考察してみました。

意見調整を要する「二世帯同居の工夫」

まず全体結果で意外だったのは、「住宅建築を思い立った」のは夫が57.6%と妻28%の倍ほど多く、妻の親との二世帯住宅でも夫(38.6%)が妻とほぼ同数あった事。やはり一国一城の主？特に注文建築への夢は男性が強いのでしょうか。ただ、それからが大変！家族の意見調整や決断に苦慮する姿も調査結果で垣間見られます。

住宅建築においてこだわる部分は家族バラバラ、特に二世帯となると親との相違が現れます。「親との意見調整が必要」だった項目の上位に【和室】があり、唯一夫婦を上回る親のこだわり数値でした。フリーアンサーを見ると「仏壇の位置」「和室の素材」「二間続き」など具体的で譲れない意志を感じます。そんな家族の意見相違の解決方法は「とことん話し合った」38.9%が最も多く、

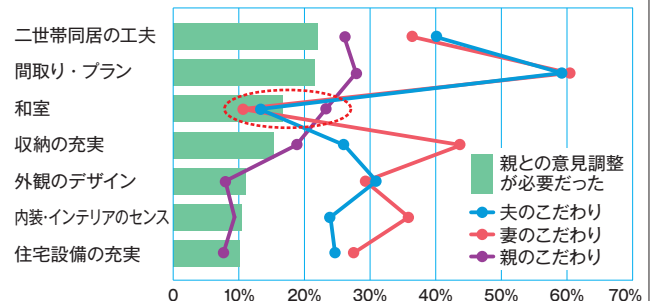
「家族会議」を平均 8.3 回開催して調整を図った様子。妻の親二世帯では「営業担当にとりもってもらった」のも 11.9%と他世帯より多かったのが興味深いところ です。

建築後の満足度を世帯別に見ると、妻の親二世帯の満足度が他より高いのですが、更に回答者を夫(マスオさん、63名)に絞ると、「たいへん満足」34.9%で満足計 88.9%と突出。やはり磯野家は幸せモデルなのだ実感しました。

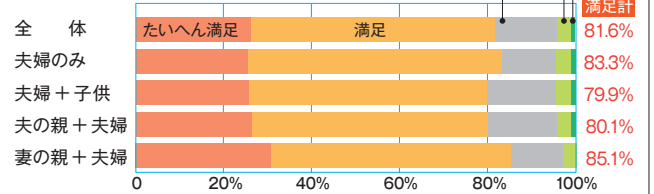
大手住宅メーカーの評価は？

最後にメーカー別施主の満足度では、イエノミカタ参画メーカー9社(=大手メーカー) 83.3%に対し、その他企業が79.9%。差が出た10項目は耐震・耐久・耐火性などハード性能で大手メーカー、設計の自由度・天然素材・低価格などでその他企業が上回っています。アフターサービス満足度は大手 66.6%とその他より評価が出ていますが、「こんな数値では問題だ!」と、より高い数値を求める大手メーカー幹部の顔が目に見えられました…。

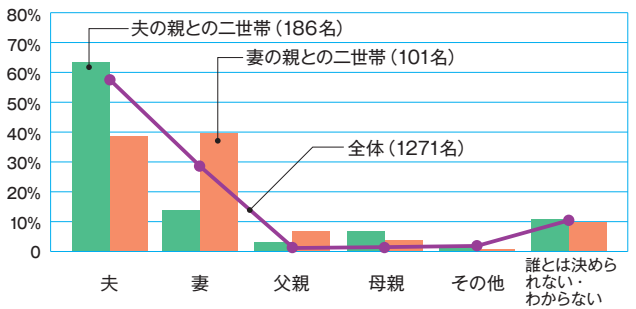
■ 夫婦と親との意見調整、上位7項目(二世帯住宅の施主/複数回答)



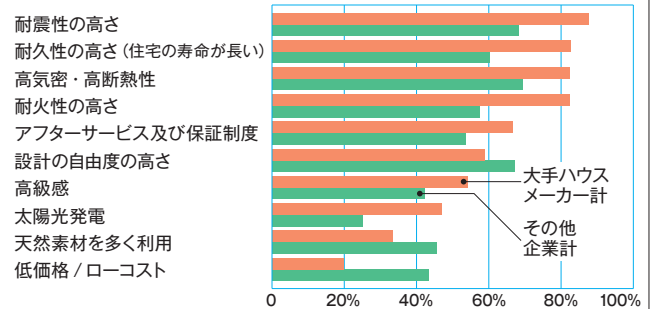
■ 総合的な満足度



■ 住宅建築を思い立った人



■ 居住後の満足度、メーカー別差異の大きい上位10項目(複数回答)



「イエノミカタ」ホームページに調査結果紹介 <http://ienomikata.com/> 全国の過去3年以内に注文住宅を建築した人 1271名(H26年1/31~2/3・インターネットリサーチ)
※調査対象が、大手メーカー9社(628名)とその他(643名)が約同数となっている為、全体の回答数値は一般の住宅市場より大手メーカー施主傾向の数値。

付加価値創造に挑戦!

注目企業

を訪ねる

世界が賞賛する誇り高き
メイド・イン・ジャパンのビーズ

トーホー株式会社



代表取締役社長

山仲 巖 氏

トーホー 株式会社

■ 本 社 広島県広島市西区三篠町2-19-6

■ 創 業 1957年

■ 資本金 2000万円

■ 売上高 11億円 (2013年3月期)

■ 従業員 120名

■ 事業内容 グラスビーズ製造販売、各種服飾材料・手芸材料の販売、ビーズ関連商材の企画、製造販売等



ビーズ工芸品などを展示する「ガラスの里」



メッキを施した三角形のガラスビーズ



四角形(上)やマカ玉型(右)など形状は自由自在。糸を通す穴の中に色を付けることでビーズの表情が豊かになる

トーホーのフラッグシップ商品となったベストビーズ



ブラウスやバッグ、ウエディングドレスなどを美しく装飾する小さなガラスの粒、ビーズ。アパレル産業にはなくてはならない資材であり、かつてはイタリアなどヨーロッパを中心に製造が盛んだったという。そして今、ガラスビーズの生産国はチエコやインド、中国、そして日本へと移っている。中でも、日本の国内シェアで約60%を誇り、世界20カ国以上に年間100トンのガラスビーズを輸出しているのが、広島に本社を構えるトーホー株式会社だ。

「日本国内でも、以前はたくさんさんのビーズメーカーがあったんです。しかし、安価に大量生産できる中国に市場を奪われ、今ではわずか数社を残すのみとなってしまいま

のアパレルメーカーにも高く評価されてきた。中でも、最高品質と世界から称賛される商品が、「ベストビーズ」である。

「15年ほど前に誕生したベストビーズは、創業者である祖父の号令のもと、およそ10年の歳月をかけて完成にこぎつけたビーズです。小さなビーズは、その製造工程で形の歪みや穴のズレなどがどうしても起きしてしまうものです。弊社のビーズは、厳しい検品の工程を経ることでそれを最小限に抑えることができていましたが、そこで満足することなく、もっと精密な世界のどこにもないビーズが作れないか。そんな創業者の思いを受けて、現場の職人たちが総出で知恵を絞って、失敗を繰り返しながら作り上げてくれたのがベストビーズなんです」

ようやく形状が安定したのに、ガラスの中にヒビが入ってしまうなど、何度も、初め

からやり直し、という事態に陥った。またたとえ完成してもコストが高くて、売れないのではないかと職人たちは不安を抱いたという。しかし、「売ることはこちらが考えるから、みんなは作ることに集中して欲しい」という創業者の言葉が後押しとなった。

「企業秘密の技術によって生まれたベストビーズは、粒の大きさが正確にそろい、使う人がよい粒を選別する必要もなく作業も早くなり、また仕上がりもなめらかで美しい。ハンドバッグやアクセサリなどに使われるビーズ織りにも最適です。職人たちの新しいものに挑戦する情熱と、妥協を許さない厳しさが、世界最高峰のビーズを生みだしました」

生き残るためには 業態を守りつつ変化すること

代表取締役就任し、今年で4年目となる山仲氏は、祖父や父のチャレンジングスピリットを受け継ぎ、ビーズの新しい可能性を模索している。

「戦後にガラスビーズの製造会社を立ち上



オリジナルブランド「ico & Co」の指輪

げ、一貫生産を確立した祖父。そのビーズをアパレル資材としてだけでなく、手芸店などに小分けのケースで卸し、一般の主婦や子供にも買いやすい商品として広めた。私にできることは何かと考えたときに、資材からの脱却を目指すべきだという思いに行きつきました。そこで、ベストビーズを使ったオリジナルのアクセサリブランドを立ち上げました。業態の基本は守りながらも変化させていくことが、生き残りに不可欠ではないでしょうか」

2013年12月に山仲氏は、東京の下北沢に「ico & Co Tokyo」をオープンさせた。ベストビーズを使った指輪やネックレスを販売しており、その質感は私たちが知る



1300度に熱せられたガラスは整管用の増幅に移し、中央に空気を送り込みながら管引してビーズの元となる原管を作る。これを切断し加熱しながら研磨することで滑らかなビーズが完成する

した。そんな中で当社が生き残ってこれたのは、他でもない、クオリティをとことん追求してきたためと自負しています。現在、製品の9割は海外に輸出しています。主な輸出先は北米とアジア各国です。ヨーロッパはやはりチエコ市場が強いのですが、差別化を図りたいと当社製品を選んでいただけの機会も増えており、ヨーロッパでの展示会へ出展するなどして市場を広げているところですよ」

同社のガラスビーズは、ひと粒ひと粒の形状や色合いの均一性の高さによって海外

ビーズとは思えないほどの高級感が漂う。売上げ、来店客数ともに増加しており、デパートなど販売網も拡大していく予定だ。

「今後は、ヨーロッパを中心とした市場を広げていきたいですね。日本のビーズがまだ知られていない分、当社のガラスビーズが斬り込む余地はまだあります。それも、製品に絶対の自信を持っているからこそ戦えるんです。当社では完成品はもちろんのこと、製造の各工程ごとに職人が厳しい検品を行っています。わずかな形の歪みも、色のブレも見逃しません。ベテラン職人のこだわりを受け継いだ若い職人も育っており、緻密な作業に粘り強く取り組んでくれる女性の職人も増えています。世界一の品質を作り続けることが、メイド・イン・ジャパンの信頼を守り続けることだと思っています」

山仲氏は、同社広島工場に併設された「ガラスの里」で、ビーズを用いた手芸講習会など、子供に向けた物づくり体験の場を提供することに力を注いでいる。

「製造業を生業としていて実感するのが、物づくりを経験しないまま大人になる子供が増えているということ。若手の人材の中にも、手づくりやクラフトを授業以外でやったことがないという人たちが増えています。これは、物づくり大国である日本の一大事です。製造業に携わる者として、少しでも物づくり、手づくりに触れてもらえる場を提供していきたいですね」

非住宅建築物の省エネ性能を評価 ラベリング制度「BELS」開始

国土交通省では、一次エネルギー消費量を指標とした新たな省エネ基準が導入されたことを踏まえ、非住宅建築物を対象とした省エネルギー性能などに関する評価・表示を行う「建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）」を創設し、開始する。

この制度は、ビルなどの建築物の省エネルギー性能を評価する新たなラベリング制度で、省エネ法に基づく届出書類などを活用した申請が可能となる。

評価結果は評価書として交付されるほか、申請者の希望に応じ、表示マークにより、建築物にプレートまたはシールなどで表示を行うこともできる。

評価・表示は、BELS業務を実施する届出を行った「評価実施機関」が行い、評価申請の受付などは4月25日（金）から開始の予定だ。

「BELS」の概要

対象建物	新築・既存の非住宅建築物
評価対象	設計時の省エネルギー性能（フロア単位なども可能）
評価者	評価実施機関による第三者評価
評価指標	一次エネルギー消費量及び BEI*

※ BEI = Building Energy Index
設計一次エネルギー消費量 / 基準一次エネルギー消費量

表示プレートのイメージ



評価対象建築物の一次エネルギー消費量、★とBEIの数値で分かりやすく表示

ご協力ありがとうございました

読者アンケート結果のご報告

1月号で皆様からお寄せいただいた、アンケートのご意見、ご要望の一部をご紹介します。

取り上げて欲しいテーマ

特集で取り上げて欲しいテーマとしては、「省エネ住宅」「高齢者向け住宅」「中古住宅流通」「住宅税制等施策」などの希望が多く寄せられました。

省エネルギー基準が改正されたことに伴い、省エネ住宅への関心がより強まっているようです。また、新設住宅着工戸数の減少への対策として、高齢者向け住宅や中古住宅流通の情報が求められています。住宅関連税制や施策に対する関心も高いことが分かりました。

業務上で困っていること、気になっていること

自由に書いていただいた中で多かった事項は、次の4つです。1. 業界の将来の見通し、2. 集客戦略、3. リフォーム関連、4. 職人や社員の教育。

業界の将来の見通しへの関心事は、住宅市場の予測、ローカルエリアの市場動向、今後の住宅の方向性など。紹介客を増やす取り組みなどの集客戦略も、気になる事柄に上げられました。また、リフォーム分野への売り込み、リフォームのB to B to Cなどのリフォーム関連、技能職人の不足問題、人材の育成方法などについての問題意識も高い、という結果が出ています。

今後の誌面作りについて

貴重なご意見をいただき、まことにありがとうございました。感謝申し上げます。

これからも、読者の皆様の知りたい有益な情報、求めている情報について、より分かりやすくタイムリーに発信していきたいと考えております。そして「建材マンスリー」を皆様により活用していただくため、いっそうの努力をして参ります。

編集室より

広告掲載・誌面に対するご意見、ご感想は
建材マンスリー編集室専用アドレスまでお寄せください。

✉ kenzai-monthly@sfc.co.jp

住友林業株式会社 木材建材事業本部 事業開発部

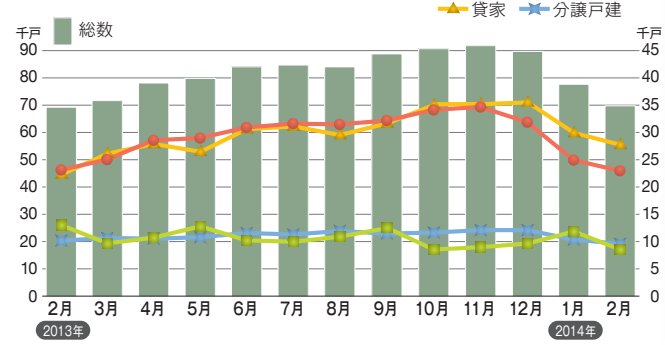
編集後記

3月最後の週末、都内へ買い物に出かけました。レジの行列を見てびっくり仰天。高価な買い物でもないのにさっさと済ませて帰るつもりが、先々で並ぶ羽目になり、消費税アップ直前の駆け込み購入を体感しました。4月からはお財布も気も引き締めて、新しいスタートです。「建材マンスリー」も、皆様からいただいたアンケートを元に、お役に立つ情報をお届けするべく、心機一転取り組んでまいります。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。
(編集員S)

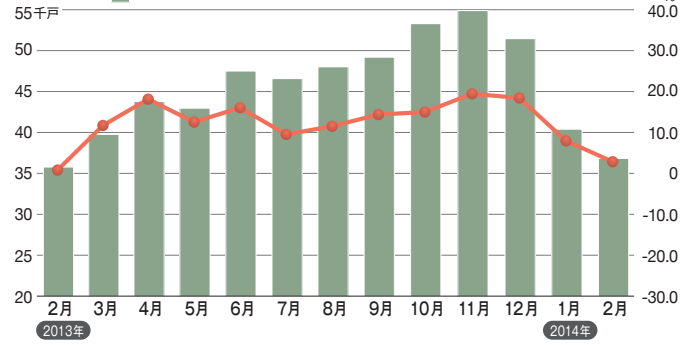
2014年2月の新設住宅着工戸数 △は減

		2月					1月	12月	11月
		対前月比 (%)		対前年同月比 (%)					
新設住宅計		69,689	△8154	△10.5	720	1.0	77,843	89,578	91,475
建築主別	公共	1,829	168	10.1	990	118.0	1,661	1,983	1,854
	民間	67,860	△8,322	△10.9	△270	△0.4	76,182	87,595	89,621
利用関係別	持家	22,891	△2,064	△8.3	△96	△0.4	24,955	31,858	34,580
	貸家	27,744	△2,209	△7.4	5,487	24.7	29,953	35,634	35,266
	給与住宅	669	314	88.5	182	37.4	355	184	360
	分譲住宅	18,385	△4,195	△18.6	△4,853	△20.9	22,580	21,902	21,269
	うちマンション	8,674	△3,267	△27.4	△4,369	△33.5	11,941	9,736	9,037
	うち戸建	9,654	△876	△8.3	△500	△4.9	10,530	12,026	12,111
資金別	民間資金	61,969	△7,701	△11.1	1,006	1.7	69,670	79,929	81,633
	公的資金	7,720	△453	△5.5	△286	△3.6	8,173	9,649	9,842
	公営住宅	1,767	853	93.3	984	125.7	914	1,502	1,193
	住宅金融支援機構住宅	3,314	△288	△8.0	△842	△20.3	3,602	4,158	4,150
	都市再生機構住宅	0	△498	△100.0	0	-	498	421	514
	その他住宅	2,639	△520	△16.5	△428	△14.0	3,159	3,568	3,985
構造別	木造	36,757	△3,442	△8.6	1,030	2.9	40,199	51,505	54,804
	非木造	32,932	△4,712	△12.5	△310	△0.9	37,644	38,073	36,671
	鉄骨鉄筋コンクリート造	148	129	678.9	△110	△42.6	19	268	454
	鉄筋コンクリート造	20,275	△2,560	△11.2	△1,583	△7.2	22,835	21,861	19,762
	鉄骨造	12,363	△2,320	△15.8	1,334	12.1	14,683	15,798	16,279
	コンクリートブロック造	92	39	73.6	29	46.0	53	84	71
	その他	54	0	0.0	20	58.8	54	62	105

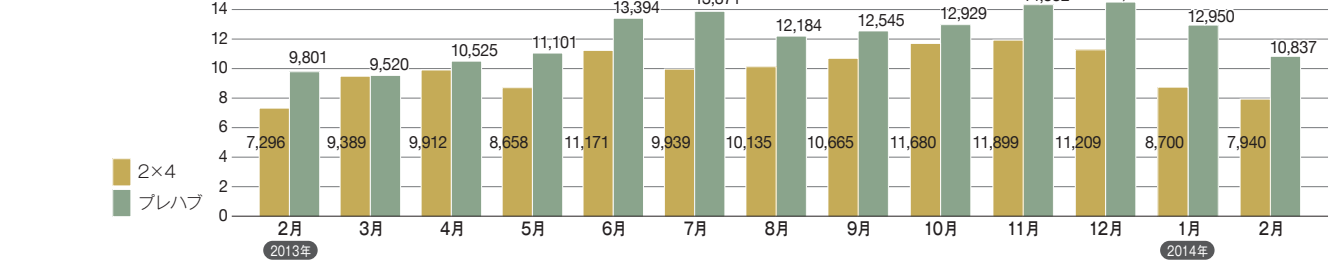
利用関係別戸数



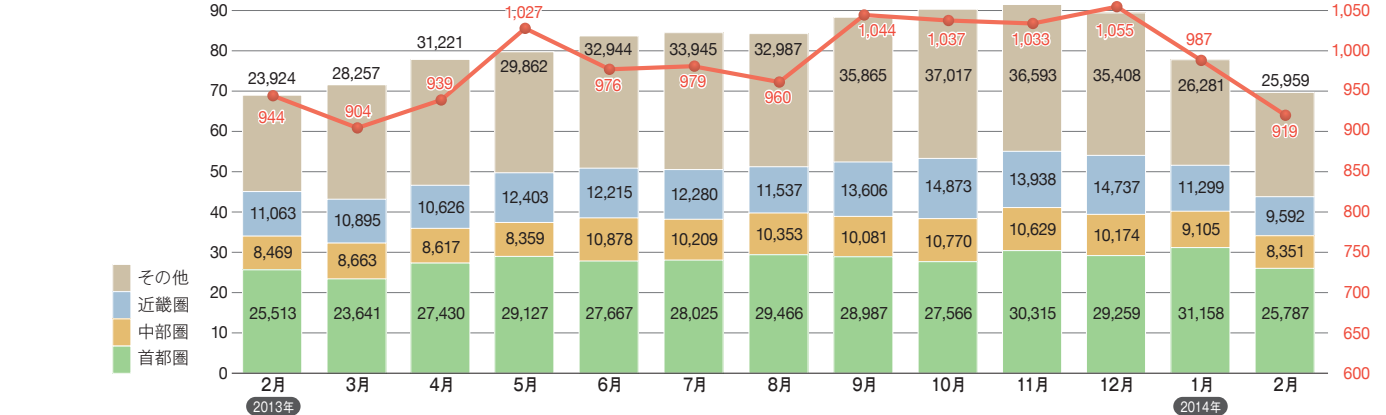
木造戸数



2×4、プレハブ戸数



都市圏別戸数



サービス付き高齢者住宅・シニア施設向け セーフケアプラス

新発売

これからの住まいを「より豊かで快適に暮らせる場」へ。

2015年には4人に1人が65歳以上の高齢者になると推測されており、最も人口の多い団塊世代の方々も仲間入りを始めています。

これからの大切なシニアライフ、そしてそれを支える人々の思いが満たされる、より豊かで快適に暮らせる住まいへ…豊富なデザイン、カラー、機能、性能が備わったアイテムをラインナップし、セーフケアプラスが貢献いたします。

Hospitality Interior

好評発売中のセーフケアプラスシリーズ



衝撃吸収フローリング
セーフケアダイレクト



アクアージュ
(車イス対応のプラン)

永大産業株式会社

〒559-8658
大阪市住之江区平林南2丁目10番60号

お客様相談 ☎ 0120-685-110
センター E-mail:cs@eidai-sangyo.co.jp
受付時間 平日 9:00~19:00 土曜日 9:00~18:00
休業日 日曜日、祝日、年末年始

<http://www.eidai.com>

EIDAI

検索

詳しくはホームページでご確認ください。



セーフケアプラス 室内ドア 3枚連動引き違い吊り戸



セーフケアプラス 室内ドア 片引き吊り戸、
システム収納 リビングステージ
スリムインタイプ ルームフロントプラン

「室内ドア」は従来の倍以上の耐久性を持ち、マスターキー、不燃対応製品など、さまざまなオプションに対応いたします。